



IT部門の課題を克服： ロジクールRally製品を 最大限に活用する

柔軟性、拡張性、費用対効果に優れる
ロジクールRallyソリューション

著者 **Craig Durr**
リサーチディレクター – Workplace Collaboration |
The Futurum Group

2023年9月

提携

logicool®



画像提供：ロジクール

それはもはや「新しい働き方」ではない

パンデミック発生以降の働き方が今後も継続することを受け入れる必要があります。その判断を先送りにすることはもはやできません。Pew Researchが実施した、米国の労働者に関する調査⁽¹⁾によると、リモートまたはハイブリッドワークに対応可能な職種の労働者のうち、75%以上が現在もそのスタイルを継続しているとのこと。The Futurum Groupは、世界の他の主要な市場でも同様の傾向が見られることに気づきました。リモートワークが増加している現在、その形式のみを整えるのではなく、重要な原則や課題に注目すべき時が来たといえます。

たとえば、現在大きな課題となっていることとして、どこから会議に参加するかにかかわらず、互いに姿が見え、声が聞こえていると参加者が実感できる環境を確保するというものがあります。企業はパンデミックを通してオンライン会議をスムーズに運営する方法を学びましたが、ハイブリッド会議ははるかに複雑です。

これは新たな課題の一例に過ぎません。業務ワークフローの更新や、オフィスの新しい利用形態、業務ポリシーの変更といった要因により、IT管理者と意思決定者の負担が増大しています。コミュニケーションやコラボレーションに関するテクノロジーが、業務効率を損なわないようにする必要があります。人事部門や施設管理部門などが新たに関係者として加わり、それぞれの立場から職場のコラボレーションテクノロジーについて相応の要望を出しますが、同時にIT部門には独自のニーズもあるため、事態はさらに複雑化します。

この現実に向き合いましょう。コミュニケーションとコラボレーションのソリューションは、働き方を進化させる上で企業の大きな助けとなります。しかし、その進化の道のりには、新たな課題がIT部門にもたらされるのです。

(1) <https://www.pewresearch.org/short-reads/2023/03/30/about-a-third-of-us-workers-who-can-work-from-home-do-so-all-the-time/>

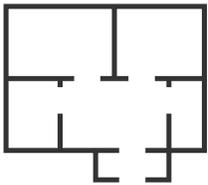


現在の環境における IT管理の重大な課題

IT部門の意思決定者は、今日のリモートおよびハイブリッドワークに対応したビデオ会議環境を導入する上で、大きな課題に直面しています。パンデミックに伴うロックダウン時に急速に導入が進められたビデオ会議のシステムとプロセスは、長期的に見ると、ハイブリッドワークスペースをサポートするには力不足である可能性があります。当社では、ITプロフェッショナルと話し合い、当社のコラボレーションソリューションに対する要望を聞く機会を設けました。その結果を基に、IT部門が直面している課題のうち上位に挙げられるものをいくつか紹介します。

会議室の複雑なレイアウト

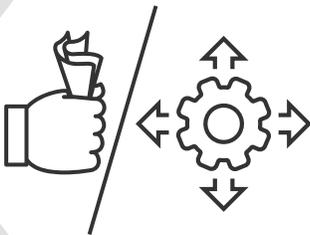
従来の会議室の概念は通用しなくなり、オフィスは、目的に応じた専用スペースや新しいユースケースに対応する多面的環境へと変わりつつあります。



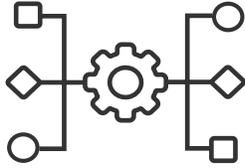
IT部門は、高品質でよりシンプルなビデオ会議システムという要求に応えるために苦心しています。しかも、従来の小、中、大会議室にとどまらない、さまざまな形態の会議室に対応しなければなりません。フォーカスルーム、集会場、柔軟性の高い会議室、コラボレーションエリアなど、さまざまな条件下で高品質な映像と音声を提供しなければなりません。その結果、IT部門が行う計画とプロビジョニングから導入とメンテナンスに至るまで、あらゆる面が複雑になります。

価格と拡張性のバランス

コストと適切な機能とのバランスを取ることは、綱渡りのように困難な仕事です。ハドルルームであろうと大会議室であろうと、会議に参加する全員に質の高い会議体験を提供したいと考えるものですが、そこで難題が持ち上がります。10室の会議室だけではなく、複数の拠点や地域にまたがる200室や500室の会議室でも同じことをしなければならないとしたらどうなると思いますか。



これは、一部の環境だけでうまく機能する会議室ソリューションを選ぶだけでは解決するものではありません。さまざまな種類の会議室、さらには大学のキャンパスにも導入可能な、汎用性の高い製品ポートフォリオをリーズナブルな価格帯で見つけ出す必要があります。また、ビデオ会議対応にするスペースがいくつあろうとも、各導入場所で同じクオリティとユーザー体験を維持しなければなりません。



多様なテクノロジースタック

お客様のIT環境を、混雑した空港のようなものだと思ってください。各ターミナルが、Microsoft Teams、Zoom、Google Meetなど、さまざまなユニファイドコミュニケーション（UC）プラットフォームに当たります。従業員は旅行者に当たります。次のフライト（会議）に間に合うように、ターミナル間を常に移動しています。かなり慌ただしいですね。The Futurum Groupでは、すべての企業のうち半数近くが、複数のUCプラットフォームを公認のものとして運用しているとし、この複雑さを裏付けています。⁽²⁾

このように多様なテクノロジーが使われるため、IT部門には、十徳ナイフのように万能な対応力が求められるようになってきました。IT部門は、会議用デバイスがこの入り組んだ迷路のような状態を通り抜けて、UCプラットフォームに関係なく、エンドユーザーにスムーズな会議体験を提供できるようにする必要があります。

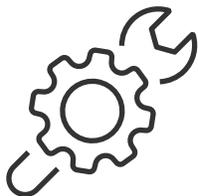


ステークホルダー（利害関係者）管理

ITDM（IT部門の意思決定者）が必要としているコミュニケーションツールは、技術的課題の解決のためだけでなく、人事、企業不動産、施設、調達など、より広範囲の組織の目的に役立つものです。たとえば、人事部門では、雇用の合理化、時間とコストの削減を行うことができます。リモートワークにより、必要とされる物理的空間を削減し、家賃、水道光熱費、オフィス備品のコストを節約できます。調達部門は、コストとベンダー管理のバランスを取るという独自の課題を抱えています。

このような状況では、さまざまな立場の関係者の要望に応えるソリューションが必要であることは明らかです。また、予算面のメリットもあります。これはSun Microsystems社が不動産において年間6,800万ドルを節減し、Dow Chemical社とNortel社が不動産以外のコストを30%削減したことからもわかります。⁽³⁾

ハイブリッドおよびリモートワークに移行したことで、IT関連の関係者の範囲は明らかに拡大しています。そのため、そのすべてに対応できるソリューションを選ぶことはますます困難になっています。



メンテナンスと管理のしやすさ

IT部門にとっては、ビデオ会議システムの初期設定は単なる第1段階に過ぎません。IT部門には、この「デジタルランドスケープ」を管理する優れたツールが必要です。その目的は、ファームウェア更新や問題のトラブルシューティングなどを、なるべく個別の現場で直接行わずに済むようにすることです。

ハイブリッドワークによってすでに複雑になった状況に、さらにこの条件が加わりまゝす。The Futurum Groupの調査によると、80%以上の会議にリモートからの参加者が1人以上いることがわかっています⁽⁴⁾。ビデオ会議対応の会議室の需要が高まっているのです。組織のハイブリッド会議への投資が増えるほど、ビデオ会議導入の規模と複雑さも増大します。また、管理、保守、アップタイムの最適化をリモートで一元的に行う必要性も高まります。

(2) The Futurum Groupの調査によると、企業の48%が、IT部門の管理するUCプラットフォームを複数使用している。

(3) <https://globalworkplaceanalytics.com/resources/costs-benefits#toggle-id-5>

(4) The Futurum Groupは、リモート参加者が1人以上いる会議は全体の83%を占めると推定している。

Rally製品ファミリーのご紹介



画像提供：ロジクール

ロジクールRallyポートフォリオは、さまざまなサイズの会議室やユースケース向けに設計された幅広いビデオ会議ソリューションを提供しています。コンパクトなRally Bar Huddleは、6人以下で使用するスペースに最適です。より高性能なRally Plusシステムは、大型の会議室やモジュール式の会議スペースに対応できます。

筆者は、The Futurum Groupの主任リサーチディレクターとして、市場の有力なベンダー様より、ビデオ会議用製品を評価する機会をいただけてきました。印象的だったのは、ロジクールが、よく使われる4つのタイプの会議室を1つのポートフォリオでカバーしていたことです。

会議室	ハドルスペース	アイデア創出スペース	没入型スペース
<p>従来の会議室向けのソリューションです。会議室の前方に設置するカメラ、タッチコントローラ、会議室内の音声と映像のカバー範囲を拡張するアクセサリを備えています。</p>	<p>短時間のコラボレーションや臨時の会議を行う、小規模スペースへのビデオ会議導入に最適なソリューションです。簡単にセットアップや大規模導入が行えます。</p>	<p>オープンなスペースや汎用性の高いスペース向けに設計された、直感的に操作でき、双方向のコミュニケーションができるソリューションです。メンバーが分散しているチームのブレインストーミングやアイデアの創出を促進します。</p>	<p>ビデオ会議用に設計された会議室です。家具のデザインとカメラの配置によって、会議室内の参加者の姿をより見やすい状態でカメラがとらえます。</p>

シリーズの各製品は、会議室の物理的な環境や参加者の向きが変わっても対応できるよう、さまざまなレベルのズーム、集音、追加の卓上型会議用カメラやマイクポッドのサポート、Speaker ViewやGrid Viewなどのインテリジェントな機能など、最適化された一連の機能を提供します。ロジクールが競合他社と異なるのは、ポートフォリオが一貫した優れた設計の機能を備えている点です。PCベース、アプライアンスベース、BYOD (Bring Your Own Device) モードなどの配慮が行き届いた導入オプション、会議室に合わせて柔軟な設置ができる取り付け機能、ケーブルをしっかりと接続した状態で固定するケーブル管理機能などを備えています。

このポートフォリオは、現代のハイブリッドワーク環境の多様な要求に応えるために、包括的なアプローチを採用していることが伺えます。そして、本書で取り上げている複雑な課題に取り組む際に、その真の実力が発揮されるでしょう。

前方および会議テーブルの中央からの視点に対応するロジクールSight卓上会議用カメラ



ロジクールRally製品ファミリーが理想的なソリューションである3つの理由

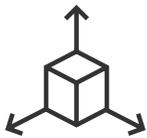
今日の複雑なハイブリッドワーク環境において、ロジクールRallyポートフォリオが実際に耐えるだけでなく、優れた選択と言える3つの説得力のある理由について見ていきましょう。

1

比類のない柔軟性。今日の職場環境の複雑さを克服するには、柔軟性が必要です。ロジクールは、最初からIT部門に柔軟性を提供します。



単一のポートフォリオであらゆるタイプの導入をサポート。お客様が求めるソリューションのデバイスがWindowsベースであっても、Androidベースであっても問題ありません。ロジクールRallyファミリーは、USBモードとアプライアンスモードの両方をサポートしているため、IT管理者はさまざまなテクノロジープラットフォームやエンドユーザーユースケースに対応できます。



スペースになじむデザイン。ロジクールRally製品ファミリーは、費用対効果の高いソリューションが必要なハドルルームから、複雑な機能を要する役員用会議室やコミュニティスペースに至るまで、事実上あらゆる会議室に対応可能な、市場でも数少ない製品ファミリーです。

ロジクールSightによる追加のカメラサポートや、Rally Systemのモジュール式オーディオオプションの他、Shure、Q-SYS、Avocorなどの認定サードパーティソリューションも使用できます。ロジクールでは、[外部AVパートナー製品](#)に対応したマウント、移動式スタンド、連携機能も提供しています。



単一ベンダーによる相乗効果。ロジクールは、デスクトップソリューションから大会議室向けまで、単一ベンダーで全てが揃う、一貫した「ワンストップ体験」を提供します。単一のベンダーでこのようなことができるのは、めったにないことです。

2

優れたIT部門向けリソース。会議室のセットアップから相互運用、継続的な会議室管理まで、製品のライフサイクル全体を通していかにIT部門の負担を軽減するかということが、IT部門を重視したポートフォリオの特長です。ロジクールが機能性だけでなく信頼性も重視しているのは、このようなIT部門への姿勢があるからです。



ロジクール Syncおよびロジクール Selectサービス。購入後はこれらのツールが管理業務を容易にし、メンテナンスの手間を減らし、パフォーマンスを安定させることで、高い信頼性を提供します。IT管理者は、高度なデータ分析、一元化された会議室システム管理、メンテナンス時のヘルプを利用できるため、会議室間を移動してトラブルシューティングの対応に追われることなく、限られたリソースをサービス提供と提供規模の拡大に集中して投入することができます。また、オプションのSelectサービスでは、エキスパートによる迅速な支援、高度な交換対応、延長保証を利用できます。



美しさと機能性を兼ね備えたデザイン。ロジクールはデザインを重視しています。そして、会議スペース全体にデザイン性が表れているべきだと考えています。複数の取り付けオプションやケーブル管理など、些細なことですが重要な点が、迅速かつ効率的な導入を実現します。また、ロジクールのユーザーインターフェイス（UI）は直感的に使えるデザインになっているため、込み入ったサポートの必要が生じません。ユーザーがどのデバイスを使っているにしても、どこにいても、一貫した質の高い会議体験を実現できるようになっています。



重要なUCプラットフォームの認定。UCプラットフォームの認定プログラムにより、導入する製品がお使いのエコシステムで確実に動作することを徹底的に検証済みであると確認できるため、IT部門の幹部は自信を持って導入できます。デバイスとプラットフォームの相互運用性を心配することがなくなるため、システム管理が容易になります。ロジクールでは、Microsoft Teams、Zoom、Google MeetなどでRallyポートフォリオ製品が動作することを保証するため、認定プログラムを採用しています。

ロジクールの価値はRallyファミリーだけではない

ロジクールを選ぶべき理由の一つは、Rally製品ファミリーだけにとどまらない、優れた価値を提供していることです。次の点に注目してください。

先進的なオーディオビジュアルの卓越性

画期的なRightSense AIテクノロジーを備えるロジクールRallyファミリーは、参加者の会議体験のレベルを引き上げ、新たな基準を打ち立てています。RightSound機能により音声を鮮明に捉え、RightSightテクノロジーによりダイナミックで臨場感ある映像体験を提供します。

ユーザー重視のシームレスなデザイン

ロジクールは、技術を開発するだけでなく、体験を作り上げます。Rallyファミリーはデザインが一貫しているため、直感的に使用可能で、使い方に悩まされることなく会議に集中することができます。

Sight、Tap Scheduler、Scribeなどの多彩な追加アクセサリ

会議室用デバイスを追加して、会議室のエコシステムの完成度を高めることができます。ロジクールSightは、会議室前方のカメラのカバー範囲を拡大します。Scribeは、手書きのホワイトボードをリモート参加者にもよく見えるようにします。Tap Schedulerでは会議の詳細情報の確認や、急な会議あるいは予定された会議のための会議室予約が簡単に行えます。これらの機器は単なる追加オプションではなく、会議室ソリューションを語る上で欠かせないものであり、柔軟性と機能性の面で選択肢を広げるものです。

3 業界トップレベルの総保有コスト (TCO)。

ロジクールRallyポートフォリオは、ただの製品ラインナップではありません。包括的な戦略をリーズナブルなコストで提供し、ハイブリッドワーク環境における課題を克服できるよう支援するためのものです。



拡張性を考慮した設計。 Rallyファミリーは、拡張性に細心の注意を払って設計されています。これは財務面にも当てはまり、妥当な予算でビデオ会議機能を複数の会議室や建物全体にまで拡張できるよう配慮されています。



メンテナンスの時間を節約。 Syncなどのソフトウェアツールやポータルにより、効率的なプロビジョニングや、更新の管理とデバイスのモニタリングをすべて一元的に管理できます。プレミアム機能を追加すると、アップタイムを最適化するための追加のインサイトやプロアクティブなアラートが利用可能になります。



お客様のROIへのコミットメント。 ロジクールでは、イノベーションを着実に続けるとともに、お客様のニーズに配慮し、お客様の投資に対するリターンを最大化できるよう努力を重ねています。これは、ビデオソリューションのライフサイクルの各段階で付加価値を提供することで証明されています。たとえば、ロジクールではCollabOSを使用しています。このデバイス運用システムを活用して、会議室内の機能改善のためにデバイスに新機能を追加したり、サードパーティによる新機能を拡充したり、他のロジクールエコシステムとの連携を強化したりできます。ロジクールは、お客様の成功を最優先に考えています。

Rally会議室ソリューションに対する The Futurum Groupの結論



画像提供：ロジクール

ロジクールのRally製品ラインナップを分析した結果、これらの製品は、ハイブリッドワークの時代の複雑な課題にIT部門の責任者たちが対処できるよう、入念に設計されていることが明らかになりました。組織のコミュニケーションおよびコラボレーションテクノロジーを調整しようとする、新しい会議室構成、新しいステークホルダー、複数のUCプラットフォーム間の調整、価格と拡張性の兼ね合いなど、多数の問題が投げかけられます。ロジクールの製品とソリューションなら、これらの課題すべてに対応することができます。

優れた点が多数あります。Rallyファミリーは、さまざまなサイズの会議室やユースケース全体で、シームレスな連携が可能です。多様な管理機能と導入機能があり、Microsoft Teams、Zoom、Google Meetなどの主要なプラットフォームに対応しています。また、ロジクールはお客様との関係を重視しており、ロジクール Selectサービスなどの付加価値を購入時以外にも提供しています。まだまだ実例を挙げるすることができます。

IT部門の課題の様相は変化を続けていきますが、ロジクールの Rally 製品ファミリーは、汎用性が高く、管理しやすく、費用対効果の高い、IT 管理者が今日直面している重要な課題に対処できるソリューションとして浮上しています。



ロジクールについて

ロジクールは、すべての人が情熱を追求できるよう支援すること、そして人と地球に優しい方法でそれを行うように努めています。またビジネスの成功に貢献し、仕事や創造的活動、ゲーミング、ストリーミングにおいて、人と人をつなげるハードウェアおよびソフトウェアソリューションを開発しています。Logitech Internationalは1981年に創立された、スイスのローザンヌに本社を置く、スイス連邦の株式公開企業であり、スイス証券取引所（SIX : LOGN）とNASDAQ Global Select Market（LOGI）に上場しています。ロジクールとビジネス製品、エンタープライズソリューションについて詳しくは、www.logicool.co.jp/business、[Logicool for Businessブログ](#)、[@LogitechBiz](#)をご覧ください。



The Futurum Groupについて

The Futurum Groupは、ハイテク業界向けのテクノロジーリサーチとコンサルティングを行うグローバル企業です。当社は、リサーチ、市場情報収集、分析、コンサルティング、ラボ評価、マーケティング、リード獲得サービスを主な業務としています。The Futurum Groupのサービスは、市場を攪乱する新興テクノロジーの分析、トレンドの特定と評価、データとインサイトの提供を中心としています。また、販売およびマーケティングキャンペーンの企画や実施を通じて、クライアント様の強みを見つけて競争力を高め、活用するお手伝いをしています。

世界各地の有力テクノロジー企業200社以上がThe Futurum Groupとの関係を強めており、そのなかにはテクノロジー業界をリードする20社のグローバル企業のうち14社も含まれています。The Futurum Groupはクライアントと長期に及ぶ信頼関係を確立してきたことでも知られ、リテーナー契約の年次更新率は99%となっています。

The Futurum Groupの詳細を知りたい場合、または当社アナリストへのご連絡を希望する場合は、[当社チームまでお問い合わせ](#)ください。

リサーチャーについて



Craig Durrは、The Futurum Groupでリサーチディレクターを務めています。企業、従業員、お客様の間にはシームレスなつながりを生むサービス、テクノロジー、デバイスに焦点を当てたWorkplace Collaboration（職場のコラボレーション）を担当しています。

専門分野は、包括的な市場分析、規模の予測、製品評価、新興のトレンド、エンドユーザーと購買者の要望調査などです。Durrは、テクノロジーの探求に加え、仕事における人的要素（労働力、職場、ワークフローに関する知見を体系化）についても研究し、これらの変動要因がテクノロジーやビジネス戦略に与える影響を図式化しています。

連絡先は以下の通りです。メール：cdurr@futurumgroup.com、
Twitter：[@craigdurr](#)、LinkedIn：<https://www.linkedin.com/in/craigdurr/>